

進路状況報告

平成二十六年入試報告

東大・京大・東工大32名

東大21名で20名台をキープ

筑波大53名

進路指導部長 木村 幸彦

平成26年度入試は、受験人口の減少にともない、センター試験の志願者数も減少となり、国公立志願者の母集団自体が縮小した。また、旧課程による最後の入試ということも加わり、昨年(センター試験難化)とは別の理由で、全国的には弱きな出願傾向がみられた。

センター試験志願者数は、約56万人で、前年度より約12,000人の減少であった。国公立の志願倍率は4.78倍(国立4.34、公立6.54倍)で、前年度の4.84倍よりやや低下した。これは、先に述べた通り、受験人口自体の縮小によるものであり、国公立大学の人気自体は大きく変化していない。また、少子化等の影響で「無理せず、より確実に、あるいは地元」という安全志向・地元志向は継続している。学部系統別では、文系では、教員養成・教育、外国語が減少。人文は、やや減。法は、微減で前年度並。理系では、増減は少なく前年度並。「文低理高」の傾向は持続している。

大学入試センターの発表によると、昨年平均点が大きくダウンした数学IAは、+10.1と

アップしたが、国語は、さらにダウンし過去最低となった(平均点98.7)。本校生の平均点は、文系が638.4点(昨年比-22.9点)、理系が665.2点(昨年比-1.0点)で、文系理系とも思うように伸びなかったが、全国的な傾向に反し、例年通り、第一志望(主に難関国立大)に挑戦した生徒が多かった。このため、現役合格率は、やや低かった。次年度に期待したい。

今春の入試結果について、主なもの挙げると以下のようである。

東大21名(新卒8名) 京大6名(新卒1名) 東工大5名(新卒0名) 東北大学20名(新卒11名) 筑波大学53名(新卒33名) 国公立大医学科17名(新卒4名) 東大は昨年度24名、今年度21名と3名減少したが、なんと20名台をキープした。内訳は、現役で、文一に1名、文三に3名と4名が合格した。理系は理科一に3名、理科二に1名であった。残念ながら、後期日程では合格者はでなかつた。近年、東大をはじめとする難関大への現役合格は、やや厳しい状況であることは否めない。外部環境の変化もふまえ、より一層の学習指導・進路指導の充実が必要である。地元筑波大は、53名が合格。昨年より11名増加、東北大は20名で、1名増加した。総じては、難関国立大を目指す姿勢を崩さずに健闘したといえる。

平成26年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

*新卒は内数です

Table with 3 columns: University, Qualified, New Graduates. Lists 28 public universities including Hokkaido, Tohoku, and various national universities.

Table with 3 columns: University, Qualified, New Graduates. Lists 28 public universities including Gakushuin, Keio, and various national universities, ending with a total for national universities.

Table with 3 columns: University, Qualified, New Graduates. Lists 28 private universities including Aoyama Gakuin, Keio, and various private universities, ending with a total for private universities.